



そうでなかったら、2000年間迫害の中で生き残っていくことはできなかったんですね。サバイバルの最後の砦、それが家族の結束だったのです。

しかし、これをやったら、ユダヤ人の家庭が一発崩壊という絶対的タブーがあるんです。それはイエス・キリストを信じることです。もし「イエス・キリストを信じる」と息子が言ったら勘当。親子の縁を切るというのは、今でもユダヤ人家族の中でよく耳にします。私が知っているのでは、両親がイエス・キリストを信じたと知った息子がイスラエル当局に密告して、移民申請を受け付けられないようにした、というケースもありました。

なぜイエス・キリストという存在は、ユダヤ人にとってそんなに厄介なんでしょう？  
なぜユダヤ人がイエス・キリストを信じるということ、そんなに嫌がり警戒するんでしょう？  
何がそんなにユダヤ人を苛立たせるのでしょうか？ 3つくらい理由があると思います。

■ユダヤ人たちは長い間、キリストの名前によって迫害されて来たんです。あるユダヤ人信者から聞いたことです。物心ついて一番初めにキリスト/クライストという単語を聞いたのは、町を歩いていた時、「このキリスト殺し！」と怒鳴り散らしながら追いかけてくるおばさん。その形相に驚きながら、「俺がいったい何した？ だれ殺した？ キリスト/クライスト？ いったい誰？」家の中でクライストなんて言葉を聞いたことはなかった。だけど、「おまえはキリストを殺した民族なんだ」とレッテル貼って、迫害する口実・理由として、初めてそれを耳にした。そういうことがあったと聞きました。

多くの場合、ヨーロッパのユダヤ人は自称クリスチャンの文化圏の中で生きているので、自分たちを迫害する人たちは全員クリスチャンだと思い込んでいます。だから、「キリストを信じる者は我々ユダヤ人を憎む者だ。我々はキリストのゆえに迫害されているのだ。実に迷惑千万な存在だ」というイメージがあるでしょう。

■ユダヤ教のラビたちは、イエス・キリストのことを正確に書いている神のことば/新約聖書を読むことを禁じています。別にペナルティーがあるわけではありません。しかし、「これ（新約聖書）に触れてはならない。これは汚（けが）れた本だ。これを読むのはユダヤ人として最低の行為だ」と教えるんです。なので、一般のユダヤ人は新約聖書を読んだことがない。

新約聖書を読めば、イエスこそ、旧約聖書に預言されていた自分たちのメシアだと分かるんですが、読んだことがないので、反ユダヤ主義の人々からイエス・キリストのイメージを汲み取り、「キリストは我々ユダヤ人を憎んでいる外国人に違いない」と思っているユダヤ人も未だにたくさんいるんですね。

■ユダヤ人がイエス・キリストを信じると、ユダヤ人コミュニティーの中で持っている全てを失います。いや、異邦人コミュニティーの中で持っているものも失うかもしれない。

私はイスラエルに20回ほど行きましたが、毎回のように虐殺記念館/ヤド・バシェムに行きます。そこにワルソー（ワルシャワ）ゲッターの写真があって、すごく心に残りました。ポーランドの首都ワルシャワ。ナチスがポーランドを制圧した時、ユダヤ人隔離地区を造ったんですね。ポーランド（\*ワルシャワ）の一角に高い壁を造って、ユダヤ人を全部そこに押し込めたんです。その時イエス・キリストを信じるユダヤ人たちも、「おまえたちはユダヤ人なんだから」ということで押し込められました。つまりナチスの考え方では、イエスを信じようが信じまいが、ユダヤ人はユダヤ人だから、おまえたちも迫害の対象。

そして、ゲットー内のユダヤ人コミュニティの中で、イエスを信じるユダヤ人たちはそこから排斥されたんです。「おまえたちは裏切り者だ。ユダヤ教の信仰を捨てた者だ。おまえたちは、ユダヤ人迫害者が信じているイエスを信じている。」十分な知識に基かないのですが、彼らはやはり排斥されたんですね。

ユダヤ人でイエスを信じた人たちは、異邦人世界でも仲間として認められず、イエスを信じているがゆえにユダヤ人仲間からも排斥される。すなわち、イエスを信じるということは何もかも失うことなんです。

なので、ユダヤ人の家族の中にイエスを信じる者が出る、ということほど不幸なことはない。ユダヤ人がイエスを信じる—このことだけは絶対に起こってはならない。起こしてはならない。不幸にしてそんな人が出たら、場合によっては葬式出します。親子の関係は断絶。一族から追放。「お前の顔なんか見たくもない」というケースも当然出て来るとでしょう。

ところが、艱難時代の前にエリヤが現れ、そして、イエスのゆえに分裂していたユダヤ人家族を修復する。イエスは異邦人の迫害者ではなくユダヤ人で、ユダヤ人のための救い主なのだとこのことを教えるんですね。「ユダヤ人がイエスを信じるというのは裏切り行為ではない。旧約聖書において、アブラハムもイサクもヤコブも、ユダヤ人の先祖たちがずーっと待ち望んで来たメシアはイエスに間違いのないのだ」と教えるのです。

よく聞く話ですが、イエスを信じる前のユダヤ人が、イエスを信じているユダヤ人から、イエスをどのように紹介されたのか。「おまえ、イエスなんか信じているのか！」と食ってかかったら、逆にこう言われるケースが多いんですね。「君は未完成のユダヤ人なんだ。イエスを信じることによって初めて、ユダヤ人として完成するんだよ。」すごく正確なアプローチだと思います。

エリヤの到来によって、イスラエルの中でイエスを信じる人が多数起こされます。それが、艱難時代の初めからユダヤ人のキリスト信者が存在している理由の1つになると考えられます。教会が携挙された後、福音を宣べ伝えていく主力はユダヤ人の信者です。ユダヤ人でイエスを信じる人たちが世界中に出て行って、福音を伝えてくれるのですね。

さて、ユダヤ人たちは長年疑問を持っています。なぜホロコーストがあったのか。なぜ神は、あの虐殺を止めてくださらなかったのか。なぜ自分たちは他の民族とこんなにも違うのか。答えは全部、イエスを信じることによって見えて来るとです。

私は日本人にもそれが言えるのではないかなと考え、今日元旦にこのテーマを取り上げました。日本という特別な地理環境を造ったのは神です。大陸と日本列島を分けているのは、天地を創造された神です。日本語という言語も神の摂理の中でつくられていったものです。バベルの塔の事件の後、摂理の中で日本語も生まれて来たのです。日本人の国民性についても意味があるに違いないのです。

日本人とユダヤ人は全然似てない点がありますが、すごく似ている点もあります。それは、先祖を大切にすることです。日本人の先祖をずーっと遡って行くと誰になりますか？大化の改新よりも縄文時代よりも もっとも遡ると、日本人の先祖はアダムです。或いはノアです。そして、アダムもノアも聖書の創造主を信じていた人たちです。

すなわち、イエスを信じるということは先祖を裏切るように思うかもしれませんが、ごく最近の先祖の中にキリスト信者や聖書を信じる人がいなかったとしても、究極の日本人のご先祖は聖書を信じる人々、聖書の創造主を信頼し崇める人たちだったのです。

ですから、日本人が創造主を信じ、創造主が人となって来られた救い主イエス・キリストを信じるというのは、究極の先祖返りをすることです。それは日本人の先祖を裏切ることはありません。日本人の究極の先祖を喜ばせることなのです。

この元旦、色んな所で神社仏閣にお参りする日本人がずいぶん多いことでしょう。しかし、原点は人が作った神の中には無く、人をお造りになった創造主の中にある。これが聖書のメッセージだと信じております。ぜひご参考にしていただければ感謝でございます。

さて、エリヤの到来の次のしるしは いよいよ最後、14 個あったしるしの 14 番目。次回またご一緒に分かち合いたいと考えておりますので、よろしければまたご覧ください。そして正月早々、チャンネル登録よろしくお願ひします。今年もお付き合い願えたら嬉しく思います。それでは、今年もよろしくお願ひします。さよなら！

☆使用した聖書は「聖書 新改訳 2017」です。